KIND

KINJO MIND

2002年3月発行号
（創刊号）

金城大学 後援会会報誌【カインド】

個性と向き合う大切さを…
施設で介護を体験して

学外実習レポート
介護福祉コース２年
加藤 真理子、喜多 映里子／特集

**介護福祉学は
理論と実践の統合された学問…**
社会福祉学部 助教授　田中 由紀子／メッセージ

施設長懇談会開催、中国溧陽市友好訪問団ご来校、
「高齢者ケアと地域サービス―アメリカと日本」
講演会開催など／トピックス

第26回金城祭が開催、女子バレーボール北信越地区優勝、
夏期のオープンキャンパス開催、
北信越社会福祉史研究会の結成など／活動リポート

就職指導計画、進路の意識調査、
クラブ紹介など／キンジョウライフ

平成13年度総会、懇談会のご報告／後援会から

一人ひとり異なった個性と向き合う、すごく大切なことを、現場で知りました。

社会福祉学部　介護福祉コース2年　加藤真理子・喜多映里子

2001年の夏、介護福祉コースの学生が、石川県内の施設を訪問し、約3週間介護実習を体験しました。厳しい現場に実際に身を置くことで、それぞれの学生が何かを得てキャンパスに帰ってきました。

特集

自分の意思を、ストレートに私に伝えて下さる方たちだ、という見方で接してみました。加藤

今回私は、松任市にある老人保健施設で介護実習を行いました。

「私の事何も知らないくせに」と実習先の利用者に強い口調で言われた時から私の実習が始まりました。

私の担当は重度痴呆棟で、今まで重度の痴呆の方と接したことがなかった為、実習前は正直いって不安がいっぱいでした。しかしその人の言葉から、不安と同時に今から向き合う方々から私は何を教えられるのだろうと期待の気持ちが出てきました。そして「重度の痴呆」という枠組みで利用者を見るのではなく、あたりまえのことかもしれませんが、一人一人異なった障害・性格等を持つ「個人」と考えるようになっていきました。

ある人は食事に強い執着心を持ち、普段静かなのに、食事の時間になると「御飯を持ってこい」と叫び出す。またある利用者は身体に触れると暴れだし、入浴に極度の拒否をする。そして「もうあんた私の事殺しなさいよ。早く殺してちょうだい」と叫びました。夕方になると必ず「バス待ってるから行かなくちゃ」と家に帰ろうとする利用者。一人一人が痴呆という個性を全面に出していました。こうして実習を進めていくうちに、私の中で今まで抱いていた痴呆に対するイメージが変化していきました。痴呆症になることによって何らかの生活障害は起きてきますが、自分の意思を相手にストレートに伝えるといった面も持ち合わせているのではと考えるようになりました。プラスに考えることによって、介護負担も軽減していくのではないかと思いました。

「痴呆だから」と考えるか、その人の「個性」と考えるのでは大きく違います。痴呆という個性を最大限に尊重し、利用者、介護者共に安心して楽しく過ごせる介護関係をきづいていくことが、【本当の介護】ではないかということを今回の実習で考えることができました。そして今後介護に携わっていくうえで、目標となるものを見つけることができた今回の実習の経験を、次の実習、さらに将来へとつなげていこうと思いました。とても意味ある実習でした。

意思を尊重しながら、やる気を引き出す、それを繰り返す難しさを知りました。喜多

今回の実習は私にとって初めての経験でした。そして17日間という短期間の中で、見学するだけでなく、実際に介助を通して自分の介護技術を確認する良い機会になりました。

最初の一週間は毎日が戸惑いの連続で、利用者の方とどうコミュニケーションを図ってよいのか分からず、とても苦労しましたが、徐々に不安や緊張感から解放され、少しずつ利用者の方の生活環境や流れが分かってきました。実習中は主に、担当入居者の介護を中心に行ってきましたが、特に入浴介助では左上下肢麻痺の方だったため、体を洗う場合には右手を使って洗うよう促しましたが、何度も断られ、結局私が洗うことが多くありました。この時に、私は利用者の方の自立や残存機能の向上の面から「自分でできることは介助しない」という方法をとりましたが、これ以前に相手のやる気をどのように出してよいのか分かりませんでした。また、リハビリ訓練においても、その日の気分や体調によって、やる気が全く異なっていくものだと実感しました。

人を介護していく場合には、相手の意思を尊重することはとても大切なことです。しかし今回の

実習では、自立や残存機能の向上の面からみれば決して相手の意思を尊重することばかりが重要ではなく、それを確認しながらその人に合った援助をしていくことが大切であると感じました。また、一度挑戦してたとえできなかったとしても、その後でもう一度挑戦したり、もし時間がかかったとしても温かい目で見守ることや、少しでもできたことをほめてあげたりしながら、次につなげる援助の大切さを学びました。実習全体を通して人を介助していく場合には、その方の障害の程度や特性に合わせた「個別援助」が最も大切であると感じました。

実習中は、失敗も多くいろいろ課題の残る実習でしたが、今回の実習で学んだことを活かし次回の実習へとつなげていきたいです。

メッセージ

介護福祉学は理論と実践の統合された学問、施設の皆様の協力があってこそ必要なことを学べます。

田中由紀子
社会福祉学部　助教授

介護福祉士の資格が誕生し早十年が経過しました。介護福祉士養成施設はこの間、多くの介護福祉士資格を有する人材を福祉施設や地域社会で活動する介護実践者として送り出してきました。

介護は、実践によって成り立つ専門職であるため、介護福祉士養成教育の中でも介護実習は重要科目のひとつであり、介護の理論と実践の展開において、また、介護福祉士の質的向上のために介護実習は、核心的な領域です。

本学社会福祉学部の実習システムは、①第Ⅰ段階～2年次8月、17日間　②第Ⅱ段階～3年次9月、17日間　③第Ⅲ段階～4年次8月～9月、23日間となっています。介護実習の方法は、自宅より通う方法と実習施設に宿泊して行う方法があります。入学前に特別養護老人ホームでボランティアの経験をしている学生もいますが、要介護高齢者の生活を理解するには及んでいません。ほとんどの学生は初めての経験であり、実習初日が近づくにつれて学生の緊張、不安が表情にも現れてくるようになります。第1段階の実習は学生も教員も、また受け入れ施設はなおさらの事、不安のなかに始まります。

緊張と慣れない通勤で実習中に体調を崩す学生も出るため、実習に送り出した後無事に終了するまで気が抜けない毎日を送ります。一方、実習に出た学生には、学内では気がつかないのですが、介護職としての資質があることに気づかされる場合があります。また、理論学習には問題ない学生が実践で苦労している様子など、学内では見られない一面を発見することがあります。

学生は毎日の出来事が珍しく、未熟な介護を利用者から怒られたり、喜ばれたり、教員が施設を巡回すると一生懸命に報告をし、体験の一つ一つに介護を実感しているようです。

今後の実習ではケアプランに基づく介護援助（理論に裏付けられた介護内容）が必須条件であると言うことを実習の経験から学生自身が学ばなければならなりません。

計画のないところに実践はあり得ない、最終段階のケアプランの作成は、実習計画のうえで重要課題であり、実習において介護技術（テクニック）の習得とともに利用者と介護職の役割を理解するためにも重要です。

介護福祉学が理論と実践の統合された学問であり、介護実習の中に介護計画の立案・実施が取り入れられ、介護の方法論、自立、自己決定権、生活の継続性の検証を実習の場で立証するために、どのような実習計画が立てられるのか、実習施設と養成施設間の実習に関する目標、内容、指導方針、実習時期、期間などについて実習施設との連携、協同が必要であり、今後の介護実習の重要課題です。

厚生労働省通知では実習期間中、週2回の実習巡回指導が定められています。養成施設と実習施設が福祉教育と介護福祉士の養成に共通の土壌を作り上げて行くためには介護実習が双方の共通項になる必要があり、指導内容、巡回指導のあり方にもたくさんの課題を抱えています。

受け入れ施設側は介護保険が実施され関連する実務の増大する中での実習でしたが、施設の担当の方は「施設は常に満床であり、かかわるスタッフは皆、献身的にお世話をしている。実習にくる学生さんにはここで過ごす老人の課題は何か？を知ってほしい」また、「実習にくる学生さんから学ぶことも多い。お互いに学びあう気持ちが大切」と話され協同しての介護専門職の養成に期待を込められていました。

ここで教えていただきました。その1
医療法人社団　白山会、介護老人保険施設
千代野苑（ちよのえん）
平成元年開所の石川県松任市にある施設です。130床をこえる規模を有し、医療、リハビリ、日常生活および家族介護のサービスを行っています。平成12年には軽い痴呆症の方がお互いサポートしあいながら共同生活を営む「ほほえみホーム」を施設横に開設しています。

ここで教えていただきました。その2
社会福祉法人　陽翠水、介護老人保険施設
陽翠の里（ひすいのさと）
平成7年に開所した石川県辰口町の施設です。緑豊かな自然の中で、家庭のぬくもりをそのままに「いつも楽しく暮す」を基本にリハビリからショートステイ、デイケアまで幅広くサービスを行っています。

第2回入学式、240人が新一年生に ●4・6

平成13年度入学式は4月6日(金)松任市民会館で行われ、社会福祉学部で学ぶ240人が新たな学生生活のスタートを切りました。

三澤学長から「福祉のエキスパートとしての期待がかかっている。しっかり学んでほしい。」との挨拶があり、続いて加藤晃学園理事長が金城学園の歴史について述べました。

多くの施設長の皆様と懇談会を開催、金沢で ●6・13

本学、福祉教育の特徴の一つに、実習教育があります。福祉教育の基本には実践的学習が据えられ、しかも、理論として学ぶだけではなく生きた現実にふれることによって、その現場から考えるということの発想を体験することが求められます。実習教育の効果を高めるためには、なんと言っても実習現場のご協力とご指導が必須条件になります。

これらを踏まえて、本学では実習教育の場としての施設と学校側との福祉教育の理念の共有化、さらに有効な実習のあり方を確立するために、施設長懇談会を企画し、その一回目を金沢全日空ホテルで開催いたしました。

懇談会にはお忙しい中、趣旨をご理解いただき、多数の施設長はじめ、実習指導者の方にお集まり頂きました。実習受け入れ側の代表として金沢朱鷺の苑・理事長　北本廣吉様と眉丈園・理事長　筆島伸平様からご挨拶をいただき、また多くの関係者のみなさまからお励ましのお言葉や、大きな期待をお寄せいただきました。さらに和やかなうちに、実習教育の在り方についても活発な意見交換を行いました。

地域の期待に応えるためにも、立派な福祉職を育てることの重要性を胸に刻み、今後一層の努力を重ねたいと思います。(副学長・教授　井上千津子)

「高齢者ケアと地域サービス―アメリカと日本」社会福祉学部主催　第1回講演会を開催 ●6・16

二十一世紀を担う社会福祉界のよき人材を養成する教育・研修プログラムの一環として、また福祉情報を地域に還元する情報発信の場として、社会福祉学部主催の第一回講演会「高齢者ケアと地域サービス―アメリカと日本」が本学大講義室にて開催されました。報告者として、アメリカのミシガン大学高齢者医療センターで長年ソーシャルワーカーとして従事してきたルース・キャンベル(同センター ソーシャルワーク&コミュニティー・プログラム部長)、元厚生省老人福祉課長として日本の高齢者社会福祉・介護福祉制度構築に貢献し、現在は大学人として活躍する古瀬　徹(北海道医療大学看護福祉学部教授)の両氏を迎えました。第一部はキャンベル先生の実践を通してのソーシャルワークについての講演会(通訳は本学部の梅崎　薫講師)、第二部は会場の聴衆からの質問を基にしてキャンベル、古瀬の両先生に、井上千津子本校副学長・教授を交えた鼎談で行われました。

今後の参考に、聴衆にアンケートをお願いし、171通が回収されました。「利用者の長所を引き出すケアマネージメントというキャンベルさんのお話は大変参考になった」(介護福祉士)、「日本とアメリカのソーシャルワークの差に驚いた。身体的ケアだけでなく、心理・情緒面にも配慮する方法は、日本ももっと取り入れるべきだということがわかった」(本学部2年生)など、感動を率直に伝える声が多く、企画・実施をした国際交流委員会のメンバーは安堵し、労苦が報われる思いがしました。(国際交流委員会　藤森宮子)

中国溧陽市友好訪問団がご来校 ●10・11

松任市の親善友好都市(1995年　提携)中華人民共和国江蘇省溧陽(リーヤン)市の友好・経済貿易訪問団8名(団長:崔　国偉・溧陽市対外友好協会会長)が本学をご訪問されました。

一行は、短期大学部加藤学長、及び社会福祉学部井上副学長と懇談の後、キャンパスを見学。介護実習室では最新の介護機器に大きな関心を示されました。

松任市は、平成14年度に溧陽市の学生2名を本学の留学生として受け入れることを計画しています。

溧陽市【Liyang City】

江蘇省の南部に位置し、人口77万人、面積は松任市の約26倍。

秦の始皇帝の統一後、2200年の歴史を有し李白など著名な文人を排出。主要な特産物は、お茶、栗、竹。特にお茶の栽培は中国内の主要産地の一つに数えられ、春にお茶を媒介とした溧陽市最大のイベント『茶葉節(お茶祭り)』が隔年で開催される。

また今シーズン初めての試みとして、幾つかの高校生チーム及び石川県中学生選抜チームに対して本学部員が技術指導を行い、先方には大変喜んで頂けました。同時にその事は部員自身の技術の見直しをする良い機会ともなりました。

加えて、松任市バレーボール協会の創立30周年を記念して行われた24時間バレーにも参加し、地域の方々と触れ合いました。

公式戦結果は、以下の通りです。

4月　第28回森田杯北陸三県学生春季リーグ戦1部　優勝（5勝）

5月　石川県バレーボール祭一般の部　準優勝、第32回春季北信越大学選手権大会1部　優勝（5勝）

6月　第34回北陸三県私立短期大学体育大会　優勝（5勝）、第20回東日本大学選手権大会ベスト16（48大学中）

9月　第28回森田杯北陸三県学生秋季リーグ戦1部　優勝（5勝）

10月　第49回秋季北信越大学選手権大会1部　3位（4勝1敗）

12月　第48回秩父宮杯全日本大学女子選手権大会　ベスト32（108大学中）

北信越地区内で行われた学生の全5大会の内、4大会では全勝優勝できましたが、秋季北信越大会では不覚を取り、勝ち続けることの難しさ、慢心の怖さを痛感しました。全日本大学選手権でも目標のベスト16には及びませんでしたが、昨年度の予選落ちから見れば格段の成長であり、部員達は恵まれた環境に恥じない努力の大切さを体感する事ができました。

各方面からの多大なご支援のお陰で爽やかなチームづくりができたと自負しております。今後ともご支援よろしくお願い致します。（監督　講師　松下高信）

Open Campus

3 オープンキャンパス

夏休みを利用して開催。高校生も多数参加

平成13年のオープンキャンパスは、第1回が6月23日（土）、第2回が8月1日（水）と2日（木）の2日間、第3回が9月24日（月）に実施され、のべ200名以上の高校生と保護者の方にご参加いただきました。中には3回連続でご来校いただいた熱心な参加者もおられました。

オープンキャンパスは、大学の実態について直接知ることができる絶好の機会ということで、最近は各大学とも内容に工夫をこらし、高校側も生徒に積極的な参加を指導するようになってきました。

本学でも、1日3時間ほどの日程でしたが、教授による模擬授業、在校生のガイドによるキャンパスツアー、福祉用具の展示紹介、手話や介護・入浴実習の体験など、盛りだくさんの内容を用意し、個別相談コーナーには多くの高校生や保護者が相談に訪れました。

今年は、より魅力あるオープンキャンパスを目指し、昨年以上の参加者を呼べるよう準備しています。

Academy

4 研究会

北信越社会福祉史研究会が結成されました。

昨年7月7日、石川県社会福祉会館において、社会福祉系の大学・短大の教員及び福祉職員の方々などが研究会の設立準備会を開き、北信越社会福祉史研究会を結成しました。

現在会員は35名で、本学の教員が多数所属しています。

研究会の目的は「北信越地域特有の社会と風土、文化などを背景に生まれた社会福祉史を調査・発掘し、研究すること並びにかかる作業を通して、社会福祉の科学的な基礎を構築する。」としています。

昨年11月10日、本学を会場に第1回北信越社会福祉史研究会が開催され、基調講演の他、4本の研究発表があり、そのうち本学から元村智明氏と矢上がそれぞれ発表を行いました。

なお、本会では、この3月末に研究誌『北信越社会福祉史研究』（第1号）の発行を予定しています。（北信越社会福祉史研究会事務局　助教授　矢上克巳）

Public Welfare

5 ボランティア

学生213名がボランティア活動、履修に登録。施設訪問など実施

本学では地域社会での実践的な学習を促進し、学内学習をより有効にするために、ボランティア活動を推奨しています。そこで、ボランティア活動を支援する一環として、一定の条件を満たした活動に対して、単位を認定しています。13年度のボランティア活動の履修登録者数は、全学生415名のうち213名でした。またボランティア活動は行っているが、登録していない学生も多数います。

以下、一学生のボランティア体験記です。

●

『私は高齢者の方とふれあいたいという思いから高齢者施設にてボランティアを行いました。最初は利用者の方に話しかけることがなかなか出来ませんでしたが、日を重ねていくにつれてコミュニケーションをとれるようになりました。

施設では、お茶くみや食事介助を行いました。昼食時間の30分前に利用者1人1人にお茶とおしぼりを配り、エプロンを一人ずつかけていきます。

体験したのはほんのさわりの部分ですが、一番大切なのは利用者とのコミュニケーションです。わからないことは職員の方に聞いて学びながら、利用者の人達と話したり、一緒にレクリエーションを楽しんだりして、施設でのボランティア活動を体験しました。』

Event

1 学園行事

在校生と新入生が交流、初めての新入生歓迎会

5月15日、第1回金城大学新入生歓迎会が行われました。

この日は、2年生と1年生の交流の場、各サークル、クラブ活動の紹介やイベント、1年生に金城大学とはどのような大学かを知ってもらうのが主な目的でした。

会場は体育館と多目的グラウンドで行われ、体育館ではダンス部による「ダンス体験コーナー」、ボランティアサークルによる車椅子を使った「障害者体験コーナー」、学友会主催によるドッチビー大会、フライングディスクストラックアウト、ビンゴ大会、多目的グラウンドではソフトボール大会が行われました。

どのコーナーでも白熱した戦いや、2年生の1年生に対する熱意が感じられ、新入生歓迎会は大成功したと思います。

この新入生歓迎会を通して、新しい仲間と知り合い、新しい発見の場となり、これから続いていく金城大学の歴史の1ページになってくれたら幸いです。

(前学友会会長　梶井 真悟)

第26回金城祭が開催

平成13年10月27、28日と2日間にわたって行った金城祭はドッジボール大会、介護演習会、模擬店などのイベントが行われました。現時点では二学年までしかいなく、人数的には寂しい学園祭ですが福祉を志す学生が集まった大学で、学生全体の団結力は他の大学を凌ぐと私は思います。

また大学は高校までとは異なり、先生主体の学園祭運営ではなく、学生が積極的に運営を行ってはじめて成り立っていくものです。学生のがんばりが学園祭の成功の鍵を握っているといっても過言ではありません。学園祭は大学での想い出づくりには最高の舞台です。たくさんの想い出を！

(平成13年度　学友会会長　藤田正憲)

スキー研修を実施、障害者スキーも体験。

2月24日から赤倉スキー場に於いて、3泊4日でスキー研修が行われました。参加者は学生16名と少なかったが、好天に恵まれ、白銀の世界でした。学生達はスノーボード班、スキー班に分かれ、本学の教員や現地のインストラクターに指導を受け、最終日には綺麗な孤を描きながら楽しそうに滑っていました。

3日目、希望者はバイスキー(障害者スキー)の体験に、新井スキー場へ行きました。初めての体験でしたが、指導員のもとに学生達は真剣に研修ができ、大変有意義な1日となりました。(学生部長・教授　矢吹嘉昭)

Circle

2 クラブ活動

手話と募金、そして点字が主な活動、…PHDサークル

「PHD」とは、「Personal Happy Day」の略で、意味は「個人の幸せな日」です。「1人1人の楽しみがみんなの楽しみとなるように、そして1人1人の幸せがみんなの幸せとなるように」と考え、決めました。

主な活動内容は、手話と募金活動、そして点字です。現在の主な活動は手話で、耳の不自由な方達との日常会話を目標に只今勉強中です。今年度からは外部講師の方をお呼びして、耳の不自由な方達との交流を計画しています。募金活動は、ユニセフ、赤十字社へ向けて、学園祭などで活動しています。点字の活動は今年度中に開始する予定でいます。

週1回のサークルは、数少ない1・2年生の交流の場となっています。みんな一人一人が楽しめるようなサークル作りを目指しています。(2年　朝日聡美)

石川県の虐待件数調査からアフガン難民救済まで…社会福祉研究クラブ

社会福祉研究クラブでは、虐待問題について石川県内の児童虐待の動向を把握するために、石川県の児童相談所での虐待件数や対策について調査してきました。その結果をまとめ、学園祭で展示やパンフレットにして発表しました。

現在は、アフガン難民問題について文献や資料で調べています。アフガンに限らず、アフリカから東南アジアに至る世界の難民問題は今、どの様な状況になっているのかも調べているところです。

戦争をすれば必ず難民が出てくるのは必至です。武力ではなく、話し合いといった平和的解決をめざすべきだとか、難民救済のために力を注いでいくべきだなどを皆で話し合っています。(2年　辰野聡則)

強化合宿を重ね、2年連続北信越大会優勝．…女子バレーボール部

女子バレーボール部は今年で9年目。今シーズンは計15名の部員に外部コーチ山本裕氏、部長の能雄司、監督の松下高信の3名を加えた総勢18名でスタートを切りました。

掲げた目標は、北信越地区内の全5大会全勝優勝すること、東日本大学選手権及び全日本大学選手権ベスト16、そして誰からも好感を持たれ、応援されるチームづくりです。

この目標を達成するべく、3月に新入部員を迎えての第1回春季強化合宿を松任市青少年宿泊研修センターで、第2回春季強化合宿を東海大学で行いました。この合宿は、全国9ブロックの優勝チームがほぼ集結しており、部員にとって全国レベルに触れる大変有意義な機会でした。

さらに8月には関西の有力チーム兵庫大学を本学に迎えての第1回夏季強化合宿、9月には第2回夏季強化合宿、11月には秋季強化合宿をそれぞれ松任市青少年宿泊研修センターで実施しました。

強化合宿5回の他、V1リーグのアクアフェアリーズ、地域リーグのＰＦＵ、有力高等学校の金沢商業、高岡龍谷、京都成安、北陸など10校以上とのテストマッチを行い、練習日数も週5日から6日に増やし、1日平均5時間の練習をしてチーム力の強化に努めました。

キンジョウ ライフ

学生や先生、保護者の皆さんからの自由なお知らせコーナーです。ホームページも見てください。

●就職指導を1年から計画的に行っています。

本学では、全ての学年において就職関連の行事を実施し、１年次から計画的に就職指導を行います。
特に、福祉施設等希望者・公務員希望者・教員希望者に対してはそれぞれの対策講座等を実施し、重点的に指導していきます。

平成14年度就職関連行事予定

	1年	2年	3年	4年
全学生対象	1年生就職ガイダンスⅠ	2年生就職ガイダンスⅠ	3年生就職ガイダンスⅠ	4年生就職ガイダンスⅠ
	1年生就職ガイダンスⅡ	2年生就職ガイダンスⅡ	3年生就職ガイダンスⅡ	4年生就職ガイダンスⅡ
	進路希望調査	進路希望調査	就職模擬試験	
			進路登録	
福祉施設等希望者対象			希望者対象説明会	希望者対象説明会
			福祉施設等講座	福祉施設等講座
公務員希望者対象			希望者対象説明会	希望者対象説明会
			公務員講座	公務員講座
教員希望者対象			希望者対象説明会	希望者対象説明会
			教員講座	教員講座

・この他にも、社会福祉士国家試験対策に関する説明会・講座等の実施を計画しております。
・4年の活動は平成15年からとなります。

●進路希望は福祉施設に集中。学生の意識調査を行いました。

10月に全学生を対象に進路希望調査を実施しました。その結果（第１希望のみ）、最も多い希望は福祉施設等であり、１年生は79.4%、２年生は74.0%となっています。次いで、教員希望者、公務員希望者とつづく結果でした。ただし、福祉施設等には福祉相談機関（公務員）を含んでいますので、実際は公務員希望者が30%近くになります。

	学年	1年	2年
1	福祉施設等（福祉相談機関含む）	79.4%	74.0%
2	福祉関連企業	1.3%	2.8%
3	公務員（福祉相談機関以外）	3.9%	5.6%
4	一般企業	1.3%	6.2%
5	教員	11.8%	8.5%
6	大学院へ進学または他の学校へ入学	0.9%	0.6%
7	その他	1.3%	2.3%
	計	100.0%	100.0%

●クラブ活動に参加しませんか。

クラブ活動やボランティア活動などに学生の皆さんが積極的に参加することは、大学生活を有意義に過ごせることは勿論のこと、正課授業では得がたい知識と技術の習得、健康な精神と身体の育成を補足するために大切な事であり、後援会からもサポートしています。

文化系クラブ名	部員	紹介、活動内容
社会福祉研究クラブ	6	地域に密着した社会福祉について研究。
ＰＨＤサークル	27	募金活動を行ったり、手話や点字を学ぶ。
Seance de cinema	9	映画観賞で、語学力、想像力、感性を。
音楽部	15	音楽を演奏・鑑賞し、人々の輪をひろげます。
心生輝クラブ	15	知的障害者・身体障害者施設でボランティア。

※部員数は14年3月現在の数値です

女子バレーボール部のホームページできました。
http://www.kinjo.ac.jp/ku/seikatsu/club/volley/index.htm

スポーツ系クラブ名	部員	紹介、活動内容
卓球部	25	現在、男女とも北信越卓球界の雄として君臨。
女子バレーボール部	19	北信越では常勝、全日本でも上位進出を。
バスケットボール部	21	全員楽しく、厳しく頑張って練習を。
NSS（ニュースポーツサークル）	16	ニュースポーツを楽しみ、各地スポレクに参加。
硬式テニス部	13	楽しく・厳しくテニスを。
陸上部	7	学内陸上競技場で、インカレ出場を目指して。
野球部	16	学内のグラウンドで、練習と体力づくりに。
サークルⓈ	28	各種スポーツを楽しみ、心身リフレッシュを。
バトミントン同好会	24	楽しくバトミントンを。

後援会から　平成13年度　後援会　総会・懇談会のご報告

平成13年度後援会総会並びに懇談会が13年7月26日(木)に本学部棟1階中講義室で行われました。当日は、1年生保護者19名、2年生保護者18名に出席していただきました。

総会では、高嶋後援会会長、加藤理事長、三澤学長の挨拶に始まり、会長・役員・委員の選出、12年度決算、13年度予算並びに事業計画、役員選任、及び会則の改正点について審議され、承認を得ました。

懇談会では、保護者の方々から授業内での問題点、学外での実習、教育方針や就職指導体制等、その他さまざまな質問があり、教員との間で意見交換ができました。

平成13年度役員、委員

役職	氏名
会長	高嶋　哲
副会長	森　泰洋、橋本美咲
会計監査	智原　茂、安田裕基
委員（2年）	青木一八、大懸恭子、小笠原省三、川通　洋、小堀和子 高橋　亘、辰野邦子、谷村松一、徳野憲一、松永久美子
委員（1年）	井合凉子、奥田幸子、金田裕子、川村恵子、坂本博幸 中出　修、西出陽子、西東晴江、古谷正幸、宮崎永次

KIND

金城大学後援会会報誌【カインド】1号　平成14年3月31日発行　編集兼発行：金城大学後援会事務局
（学）金城学園理事長　加藤晃、金城大学学長　三澤義一、後援会会長　高嶋哲
石川県松任市笠間町1200　TEL 076-276-4400　FAX 076-275-4316
URL http://www.kinjo.ac.jp/　E-mail daigaku@kinjo.ac.jp